

## ＜事例2＞ 題材名「曲想を感じ取ろう」（8時間扱い） 小学校第5学年

～音楽を特徴付けている要素を読み取る力をつけるためのアプローチ～

本題材は、小学校指導要領A表現（2）「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。」を中心に、A表現（4）「音楽をつくって表現できるようにする。」や、B鑑賞（1）「音楽を聴いてその良さや美しさを味わうようにする。」を関連させて指導する題材である。ここでは、曲想を感じ取らせるとともに、それに関連する音楽を特徴付けている諸要素を読み取らせながら、表現や鑑賞の活動を展開していく。そして、表現で学んだことを鑑賞に、また、鑑賞で学んだことを表現に生かすことができるようにすることをねらいとしている。

### 1 題材の目標

- 曲想を感じ取って、進んで聴いたり演奏したりできるようにする。
- 短調のふしづくりや、短調の楽曲の階名唱や演奏ができるようにする。
- 曲想を感じ取って聴いたり、曲の感じを生かして表現の工夫をしたりできるようにする。

### 2 題材設定の意図

本学級では、「音楽のたからものを集めよう」と題して、歌唱や合奏の教材で、楽譜を見て、範唱を聴いて、伴奏を聴いて、歌ってみて・・・わかったことや感じたことを書き留めて集めていく活動を行ってきた。この活動を行うことによって、自分で表現の工夫のヒントとなる情報を見つけられるようになり、主体的に合唱や合奏に取り組めるようになってきた児童が増えた。また、鑑賞の活動においても、音楽の中に隠された宝物（音楽を特徴付けている要素）を見つけ出すことのできた児童を称賛することによって、音楽を特徴付けている要素に注目しながら聴くことのできる児童が少しずつ増えてきた。

そこで、本題材では今までの「音楽のたからものを集めよう」の活動で培ってきた児童の力をさらに高められるようにしていきたい。表現（歌唱）の活動では、初めて短調の曲を歌うため、児童は大変新鮮に感じるであろうということが予想される。この短調という要素とともに、歌詞の内容や言葉の響き、拍子や強弱記号などを児童が見つけ出せるようにし、表現の工夫につなげていく。鑑賞の活動では、流れる音楽はもちろんのこと、楽譜や映像からも、いろいろな音楽を特徴付けている要素を読み取らせ、それらが重なり合ってつくり出す曲想を味わって聴けるようにする。そして、本題材のまとめとなる表現（合奏）の活動では、調・旋律の特徴・強弱などの音楽を特徴付けている要素を児童が自分で見つけ出し、曲想を生かした演奏ができるようにしたい。

### 3 主な教材

「秋にさよなら」 高木あきこ 作詞／加賀清孝 作曲

歌詞は、秋の夕方の風景を題材にしている。イ短調、3拍子の旋律が歌詞の情景と重なり合って、曲全体に寂しげな雰囲気醸し出している。平易なリズム構成による旋律なので、イ短調の視唱教材としても適している。

『ふしをつくって演奏しよう』

2小節のモチーフを用意し、児童が続きをつくりたいフレーズを選びふしづくりを簡単にできるようにした教材である。2小節のモチーフの続きのふしづくりとなるので、おおかたモチーフと同じようなリズムやメロディーのくり返しとなるが、この教材では、短調の気分を感じ取ったり、音階を理解したりすることをねらいとしている。

「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」 モーツァルト 作曲

正式な題名は、「セレナード ト短調」K. 525である。編成はバイオリン2、ビオラ、チェロ、コントラバスで、重奏の形でも弦楽合奏の形でも演奏される。第3楽章は大変コンパクトながら、変化に富んだ内容をもっている。全体はABAの三部形式になっており、Aの部分はおおむね軽やかで弾むようなリズムが支配し、Bの部分は優しい表情で滑らかに流れる。

「キリマンジャロ」 ウォルフシュタイン・ウォルフガング ヤス 作曲 橋本祥路 編曲

アフリカ東部、タンザニアの北部にある火山キリマンジャロを題材にした曲である。曲は1～2小節ごとに音色を変化させながら進められていく。シンコペーションを生かした特徴的なリズムが頻繁に使われている。スタッカートを生かして演奏するアと、滑らかなイの旋律の特徴を感じ取って表現の工夫をすることができる教材である。

4 題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心 ・意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱		○		
器楽	○	○	○	
創作	○		○	
鑑賞		○		○
題材の 評価 規準	進んでふしをつくったり、曲想を感じ取って聴いたり、表現しようとしていたりしている。	短調の曲想を感じ取って、歌い方の工夫をしたり、曲想の変化を感じ取って聴いたり、演奏の工夫をしたりしている。	旋律の特徴を生かして楽器を演奏したり、楽しみながらふしをつくったりしている。	曲想の変化を感じ取りながら聴いたり、楽曲全体を味わって聴いたりする。
学習活動 における 具体的 評価 規準	①進んでふしをつくろうとしている。 ②合奏に興味を持って、話し合いや練習に進んで取り組んでいる。	①歌詞のよさや短調の曲想を感じ取って歌い方の工夫をしている。 ②AとBの曲想の違いを感じ取り、音楽的な特徴の違いに気付いている。 ③アとイの曲想の変化を表現できるように演奏の工夫をしている。	①楽しみながら短調のふしをつくっている。 ②「キリマンジャロ」の主旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで視奏している。 ③伴奏に合わせて、自分のパートを演奏している。	①曲想の変化を感じ取り、楽曲全体を味わって聴く。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

	ねらい ・ 主な学習活動	具体的評価規準 (評価方法)	☆読解力を育成する視点 ・ 教師の働きかけ
第一 次  1	<p>歌ったりふしをつくったりすることによって、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長調と短調の「メリーさんの羊」を聴き、違いに気付く。</li> <li>・ 旋律に注意して「秋にさよなら」の範唱を聴き、短調であることに気付く。</li> <li>・ イ短調の音階を知る。</li> <li>・ 鍵盤ハーモニカで、ハ長調とイ短調の音階を弾き、違いを確かめる。</li> <li>・ 歌詞に注意して「秋にさよなら」の範唱を聴き、美しい表現に気付く。</li> <li>・ 「秋にさよなら」を歌う。</li> <li>・ 短調の曲想や、歌詞の内容を生かした歌い方について話し合う。</li> <li>・ 話し合ったことを生かして、「秋にさよなら」を歌う。</li> </ul>	<p>イー① 歌詞のよさや短調の曲想を感じ取って歌い方の工夫をしている。 (児童の発表・ワークシート)</p>	<p>短調の曲想を感じ取る。</p> <p>☆児童がよく知っているメロディーを、短調と長調で聴かせることで、違い(曲想や音階)を感じ取ることができるようにする。</p> <p>・ 実際にピアノを演奏している手元を見せて、使っている音が違うことに気付けるようにする。</p> <p>☆歌詞ではなく旋律に注意して聴けるようにする。</p> <p>☆ハ長調と比較しながらイ短調の音階の説明をする。</p> <p>☆音階の演奏をするという体験を通して単調への理解を深める。</p> <p>・ 自分の好きな言葉表現を発表させたり、その言葉から受ける感じや、思い浮かぶ情景を発表させたりする。</p> <p>・ 音程の取りにくいところはくり返し練習させる。</p> <p>☆単調の感じにあった歌い方、擬音語や擬態語を生かした歌い方、強弱の工夫などに視点を当てて話し合えるようにする。</p> <p>・ 児童の工夫に合わせて、ピアノ伴奏も工夫する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イ短調の音階を鍵盤ハーモニカで弾く。</li> <li>・ モチーフを聴き、続きをつくりたいふしを選ぶ。</li> <li>・ 既習曲の構成を参考にし、モチーフを生かしてふしづくりをする。</li> </ul>	<p>アー① 進んでふしをつくらうとしている。 (児童の様子観察、ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音階を構成している音を確認しながら弾けるようにする。</li> <li>・ モチーフに続くふしをつくらせることによって、簡単にふしづくりができるようにする。</li> </ul> <p>☆既習曲を参考に、モチーフをくり返したり、変化させたりすることによって簡単にふしづくりができることを知らせる。</p> <p>・ 記譜ができない児童は、自分がわかる方法で音をメモさせておき、教師が記</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• できあがったふしを発表する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 譜を手伝う。</li> <li>• モチーフを使わず、自分で初めからふしづくりをしたい児童のための五線譜も用意しておく。</li> <li>• 全員が発表できるように、2次、3次でも授業の始めの時間に発表の時間を設ける。</li> </ul>
第二次	<p>「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」を聴き、AとBの曲想の変化を感じ取り、その変化を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ふしの発表をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 練習時間を少し取り、自信をもって発表できるようにする。</li> <li>☆曲想の変化に鑑賞の視点を絞り、曲想が変わったところで手を挙げさせる。</li> <li>• 児童が手を挙げたときに黒板に番号を書いていく。〔①②・・・〕</li> <li>☆スコアを提示し、音楽的な特徴を見つけるためのヒントとなるようにする。</li> <li>☆スコアの拡大譜を用意し、曲の進行に合わせて楽譜を指していく。</li> <li>• 児童一人一人の感じた曲想を、できるだけその根拠となる音楽的な特徴とともに発表させる。</li> <li>• 曲想のみ、音楽的な特徴のみの発表についても取り上げ、それぞれを結びつけることができるようにする。</li> <li>☆曲想の変化に聴く観点をもたせ、身体表現をしながら曲全体を味わって聴かせる。</li> <li>• 児童と一緒に身体表現をし、全員の児童が曲想の変化を味わって聴くことができるようにする。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」を曲想の変化に気を付けながら聴く。</li> <li>• くり返し聴いて、曲想〔曲の感じ〕とそのもとになる音楽的な特徴〔気付いたこと・分かったこと〕を発表する。</li> <li>• 曲想の変化に気を付けながら楽曲全体を味わって聴く。</li> </ul>	<p>イー② AとBの曲想の違いを感じ取り、音楽的な特徴の違いに気付いている。 (児童の様子観察・発言・ワークシート)</p> <p>エー① 曲想の変化を感じ取り、楽曲全体を味わって聴く。 (児童の様子観察・ワークシート)</p>	
第三次	<p>曲想の変化を感じ取り、「キリマンジャロ」の合奏を工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ふしの発表をする。 (全員の発表が終わるまで、毎時間授業の始めに行う。)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 練習時間を少し取り、自信をもって発表できるようにする。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「キリマンジャロ」の範奏を聴き、曲想の変化を感じ取る。</li> <li>• 主旋律の階名唱をし、リコーダーや鍵盤ハーモニカで視奏する。</li> </ul>	<p>ウー② 「キリマンジャロ」の主旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで視奏している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆旋律に注意して聴かせ、歯切れのよいアと、なめらかなイの違いを感じ取れるようにする。</li> <li>• スタッカートに気を付けて演奏できるようにする。</li> <li>• 演奏が難しい児童は個別指導を行う。</li> <li>• 主旋律が演奏できるようになった児童</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム楽器の伴奏例を練習する。</li> </ul>	(演奏の聴取)	<p>には、他のパートに挑戦させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分ができそうなリズムを選んで練習できるようにする。</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴奏楽器の音に注意しながら範奏を聴き、楽器の担当を決める。</li> <li>パートごとに練習をする。</li> <li>他のパートと合わせて練習する。</li> <li>2つのグループをつくる。</li> </ul>	<p>アー②(1) 合奏に興味を持って、話し合いや練習に進んで取り組んでいる。</p> <p>(児童の様子観察) ウー③ 伴奏に合わせて、自分のパートを演奏している。</p> <p>(演奏の聴取)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主旋律がまだ演奏できていない児童には、主旋律を担当させ、発表までにみんなと合わせて演奏できるようにする。</li> <li>パートごとに合わせて演奏できるようになったら、他のパートと合わせて練習ができるようにする。</li> <li>演奏の能力が同じようになるように、グループ編成に配慮する。</li> </ul>
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏の工夫について話し合う。</li> <li>話し合ったことを生かして、曲想の変化を表現できるように練習する。</li> <li>中間発表をし、気付いたことを発表し合う。</li> <li>合奏の練習をし、曲想の変化を表現できるようにする。</li> <li>合奏の発表をする。</li> </ul>	<p>イー③ アとイの曲想の変化を表現できるように演奏の工夫をしている。</p> <p>(発言・練習の様子・演奏の聴取)</p> <p>アー②(2) 合奏に興味をもって、話し合いや練習に進んで取り組んでいる。</p> <p>(児童の様子観察)</p>	<p>☆話し合いの視点(奏法・強弱・音色)について、全体で指導してからグループの話し合いを行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アとイの曲想の変化に視点を当てて各パートの演奏を工夫できるようにする。</li> </ul> <p>☆自分たちの演奏を聴く役目の児童を決めて練習させ、曲想の変化が表現できているか確かめながら練習を進められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よかったところやさらに工夫が必要なことについて互いに感想を発表できるよう、聴く視点を明らかにしておく。</li> </ul> <p>☆中間発表の演奏を録音・録画し、自分たちの演奏を客観的に試聴して話し合いができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表での友だちの意見や録音を参考にして、さらに表現の工夫ができるようにする。</li> <li>友だちの演奏で工夫されていたと気付いたことを発表させる。</li> </ul>

## 6 本時の学習(3/8時)

### (1) 目標

「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」を聴き、AとBの曲想の違いを感じ取り、曲想の変化を味わって聴く。

(2) 展開

<p>学習活動 (予想される児童の反応)</p>	<p>・教師の働きかけ ◎学習活動における具体の評価規準 ☆読解力を育成する視点 ※児童の反応</p>
<p>1 「秋にさよなら」を歌う。</p> <p>2 前時につくったふしの発表をする。</p> <p>3 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」を鑑賞する。 ・楽曲を通して聴く。</p> <p>4 本時の学習の確認</p>	<p>・前時までの学習を想起させ、歌詞の内容に合った歌い方や、短調の曲想を生かした歌い方ができるようにする。</p> <p>・練習時間を少し取り、自信をもって発表できるようにする。</p> <p>・発表が終わっている児童は、2つめのふしづくりに挑戦させる。</p> <p>・1回目の鑑賞は聴く視点は示さず、児童と楽曲の出会いを大切にし、曲全体を把握させるために聴かせる。</p>
<p><b>曲の感じの変化を見つけよう</b></p>	
<p>(1) 曲想の変化を感じ取りながら聴く。</p>	<p>☆曲想の変化に鑑賞の視点を絞り、曲想が変わったところで手を挙げさせる。</p>
	<p>・児童が手を挙げたときに黒板に番号を書いていく。 ※曲の感じが変わったところで8回手を挙げた。9つの部分に分けて聴き取った。</p> <p>・黒板に「①②③④⑤⑥⑦⑧⑨」と板書し、楽曲に合わせて今どの部分が演奏されているのかを示す。 ※「先生、もう一回聴きたい。」と声が上がった。 真剣に楽曲に聴き入る。</p> <p>☆細かく曲を分けて聴きながらも、大きなまとまりを意識させるような言葉かけをする。</p>
<p>(2) ①～⑨はそれぞれどんな感じかをメモしながら聴く。 ・感じ取ったことを発表する。 (①は、弾んだ感じがする。スタッカートで演奏されている。) (②はなんだか暗い。短調になったからだ。) (②と③の後半は①に戻るよ。ここにも変化があるね。) (③は・・・以下同じように)</p>	<p>※児童の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しがあった。</li> <li>・曲の感じが変わるときに音が強くなった。だから終わる感じがした。</li> <li>・曲の感じが変わる前は弱くなった。</li> </ul> <p>A { ①明るい・はねている感じ ②少しおだやか・静か・ゆったり ③なめらか・強弱がある</p> <p>B { ④波みたい・ゆったり・なめらか ⑤ゆったり・優しい・静か ⑥優しい・なめらか・暖かい</p>
	<p>A { ⑦①と同じだが<u>迫力があるように感じた</u> ⑧②と同じ ⑨③と同じ</p> <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <p style="text-align: center;">①と同じなのになぜこう感じたのだろう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><u>「B がゆったりしたかんじだから、はじめと同じなのに迫力があるように感じたんだよ。」</u></p>

(3) 曲想〔曲の感じ〕とそのも  
になる音楽的な特徴〔気付いた  
こと・分かったこと〕を結びつ  
けて聴く。

- ・音楽的な特徴〔気付いたこと  
分かったこと〕を発表する。

(4) 曲想の変化に気を付けながら  
楽曲全体を味わって聴く。

- ・弾んだ感じは右手を挙げる。
- ・滑らかな感じは左手を挙げる。
- ・音が強くなったら手を前に出  
す。



5 次時の学習の予定を知る。

☆スコアを提示し、音楽的な特徴を見つけるためのヒ  
ントとなるようにする。

※「楽譜を見たい？」という発問に、見たいという  
全ての児童が「見たい。」と答えた。

☆スコアの拡大譜を用意し、曲の進行に合わせて楽譜  
を指していく。

- ・それぞれの部分について、児童が旋律の特徴や伴奏  
楽器の演奏などに気を付けて聴くことができるよう  
言葉がけをする。

※児童の発表

- A {
- ①明るい・はねている感じ→スタッカート
  - ②少しおだやか・静か・ゆったり
  - ③なめらか・強弱がある→楽譜に f・p がある
- B {
- ④波みたい・ゆったり・なめらか→スラー
  - ⑤ゆったり・優しい・静か
  - ⑥優しい・なめらか・暖かい
- A {
- ⑦①と同じだが迫力があるように感じた
  - ⑧②と同じ
  - ⑨③と同じ

◎曲想の違いを感じ取り、音楽的な特徴に気付いてい  
る。(イー③)

☆曲想の変化に聴く観点をもたせ、身体反応をしなが  
ら曲全体を味わって聴かせる。

- ・児童と一緒に身体表現をし、全員の児童が曲想の変  
化を味わって聴くことができるようにする。

◎曲想の変化を感じ取り、楽曲全体を味わって聴いてい  
る。(エー①)



◎次の時間から、曲の感じを生かした合奏をしていく  
ことを伝え、意欲をもたせる。

## 7 観点別評価の進め方

【学習への関心・意欲・態度】

学習活動における 具体的評価規準	具体的な評価方法
アー① 進んでふしをつく ろうとしている。	Cと判断される状況への働きかけ Aと判断するキーワード 【具体的な評価方法】 ふしつくっている児童の様子観察や、ふしの演奏の聴取をする。 【Cと判断される状況への働きかけ】 途中まで一緒にふしづくりをし、自分でつくることができたことを 称賛し、やる気をもたせる。

	<p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>複数のふしをつくろうとする姿勢</li> <li><input type="checkbox"/>できたふしを何度も練習したり，よりよいふしになるようにつくり変えたりしようとする姿勢</li> </ul> <p>一つのふしづくりを終えても，まだつくりたいという意欲が見えたり，自分のふしを何度も練習して演奏を楽しんだりさらに改善したりしようとする姿が見えたりしたらAとする。</p>
<p>アー②（１）</p> <p>合奏に興味をもって，話し合いや練習に意欲的に取り組んでいる。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>話し合いの参加の様子や，練習に取り組む姿勢の観察をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>合奏は全員が協力してつくりあげるものであることを伝える。練習でつまづいている児童の支援をし，少しでも進歩が見られたら賞賛する。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>全体の音量のバランスを考えた楽器分担に対する発言</li> <li><input type="checkbox"/>練習に意欲的に取り組む姿勢</li> </ul> <p>主旋律を生かすようにその他の伴奏楽器の分担をしようとする発言をしたり，自分のパートの練習に意欲的に取り組んだりする姿をAとする。</p>
<p>アー②（２）</p> <p>練習に意欲的に取り組んだり，友だちの演奏に関心をもって聴いたりしている。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>グループ練習での児童発言や，練習への取り組みの様子観察をする。友だちの演奏を聴く態度の観察や、演奏に対する感想の聴取をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>演奏発表に向けての意欲が高まるような言葉がけをする。上手にみんなと合わせられたところを賞賛する。友だちも頑張って練習してきたことを理解させ，友だちの演奏もしっかりと聞けるようにする。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>グループの友だちとの協力・教え合い</li> <li><input type="checkbox"/>聴く視点に合った感想</li> </ul> <p>グループで話し合った表現の工夫ができるように練習したり，友だちにアドバイスしたりしている。友だちの演奏を聴いて工夫して演奏されていたことを認めるような感想を発表している。</p>

【音楽的な感受や表現の工夫】

<p>イー①</p> <p>歌詞の内容を理解し，短調の曲想を感じ取って歌い方を工夫している。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>児童の発言や歌声の聴取，表情の観察をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>児童が発表した表現の工夫を拡大譜に書き込み，それを確認しながら歌えるようにする。</p> <p>友だちの歌声をよく聴くように声をかけ，みんなと合わせて歌えるようにする。少しでもよい表情が見られたら賞賛する。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>歌詞の内容や曲想にあった歌い方の工夫に関する発言</li> <li><input type="checkbox"/>擬音語や擬態語，強弱の変化を生かした歌い方</li> </ul> <p>歌詞の内容や短調の旋律を感じ取って具体的な歌い方の工夫を提案している。みんなで話し合ったことを生かして歌い方の工夫をしたり，表情豊かに歌ったりしている。</p>
<p>イー②</p> <p>AとBの曲想の違いを感じ取り，旋律</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>児童の反応の観察や，学習カードへの記入からとらえる。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p>

<p>の特徴の違いに気付いている。</p>	<p>児童が発表したことを板書し、AとBの曲想の違いや旋律の特徴を言葉でも理解できるようにする。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> スタッカートやレガートに演奏されていることに気付く</li> <li><input type="checkbox"/> AとBの曲想が対照的であることに気付く</li> </ul> <p>AとBを聴いて自分がもったそれぞれに対するイメージを言葉や文章で表現し、そのイメージの根拠となる音楽的な特徴について気付くことができる。</p>
<p>イー③ アとイの曲想の変化を表現できるように演奏の工夫をしている。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>グループ練習での児童の発言や、演奏の聴取をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>友だちの演奏の工夫に対する発言を理解させ、具体的にどのような演奏をしたらよいかを一緒に考える。演奏の工夫が見られたときには賞賛をする。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> グループ練習での演奏の工夫につながる発言</li> <li><input type="checkbox"/> 話し合ったことを生かした演奏の工夫</li> </ul> <p>アとイの音楽的な特徴に気付いて演奏の工夫を話し合っている。アとイの旋律の特徴を感じ取って、演奏の工夫をしている。</p>

【表現の技能】

<p>ウー① 楽しみながらモチーフに続くふしをつくることができる。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>ふしをつくっている児童の様子観察や、できあがったふしの聴取をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>モチーフのリズムをそのままくり返し、少し音を変えることで簡単にふしづくりができることを教える。記譜のできない児童はふしを自分が分かるようにメモさせておき、教師が記譜を行う。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 複数のふしをつくる</li> <li><input type="checkbox"/> モチーフを使わず自分でふしづくりをする</li> </ul> <p>ふしをつくることを楽しみ、特徴の異なるふしづくりにも挑戦している。一人ではつくることができない友だちの手助けをすることができる。</p>
<p>ウー② 「キリマンジャロ」の主旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで視奏することができる。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>児童の演奏聴取をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>一緒に階名唱をしたり、ゆびづかいの指導をしたりして少しずつ演奏できるように指導する。曲の1部だけでもみんなと合わせられるようになったら賞賛する。</p> <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 早い段階で演奏ができるようになる</li> <li><input type="checkbox"/> 旋律の特徴を生かしながら演奏することができる</li> </ul> <p>個人練習の早い段階で演奏ができるようになり、まだ演奏できない友だちの手助けをしたり、他の友だちと合わせて演奏している。アとイの旋律の特徴を生かしながら演奏している。</p>
<p>ウー③ 伴奏合わせて、自分のパートを演奏することができる。</p>	<p>【具体的な評価方法】</p> <p>児童の演奏聴取をする。</p> <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <p>主旋律がまだ演奏できていない児童は、合奏でみんなと合わせることの喜びが味わえるように主旋律の練習を続けさせる。合わせられる部分が増えるたびに賞賛し意欲を高めていく。</p>



が印象的だった。この教材でこの活動を初めて行ったので、記入したり発表し合ったりすることに大変時間がかかったが、「音楽のたからもの」（音楽を特徴付けている要素）を見つけ、それを自分たちの表現に生かしていこうとする児童の主体的な学習につながったことはよかったと思う。

上記のように、各題材で中心となる歌唱や器楽の教材で「音楽のたからものを集めよう」の活動を行っていった。

〈資料2〉 題材：曲想を感じ取ろう 教材：「秋にさよなら」

音楽のたからものを集めよう	
題名	秋にさよなら
学年	5年1組
	<input type="checkbox"/> わかったこと <input type="checkbox"/> 感じたこと
楽譜を見て	①メロディが、メロディフォルテ、シャープ、クレッシェンド、デクレッシェンドがある。②1と2の拍までと3と4の拍までが同じ音だ。
歌詞を読んで	①さらさらさわさわなど音と表現している。②やさしくて、おにやのな感じ。
演奏を聞いて	①思ったより暗かった。②「さよなら」といふ感じが、かたじけない感じ。
伴奏を聞いて	①伴奏のピアノでも、クレッシェンドが現れていた。②伴奏だけでも暗い感じ。
歌ってみて	①やさしい声で歌つと合う。リズムがとりやすい。②暗い、悲しい感じ。
自分は、この曲を <u>きれいにひびかせて、強弱をつけ、悲しい感じになるように</u> のように演奏したい。	
この曲を演奏してわかったこと、思ったこと	

  

音楽のたからものを集めよう	
題名	秋にさよなら
学年	5年1組
	<input type="checkbox"/> わかったこと <input type="checkbox"/> 感じたこと
楽譜を見て	①1と2の拍までと3と4の拍までが同じ音だ。
歌詞を読んで	①同じ言葉が何回くりかえされている。②やさしい、静かな感じ。
演奏を聞いて	①思ったより暗い。②暗い。
伴奏を聞いて	①今まで歌っていたよりも暗い。
歌ってみて	①歌詞とにている風音が思いつくような気がする。②思ったよりもリズムが早い。
自分は、この曲を <u>強弱記号にあわせてひびきのある声を出して、ひくく暗い感じで相手に伝えて、あじのイメージができるように演奏したい。</u>	
この曲を演奏してわかったこと、思ったこと	

この題材で検証授業を行った。「秋にさよなら」で児童は初めて短調の学習をする。今までのこの活動の成果が出て、拍子や強弱、ふしのくり返しや変化などさまざまな気づきがあった。どの児童も感じたことに「暗い」と書いたため、そこから短調の説明に入っていた。この題材の前に和音の学習をしたときに、終わりのあいさつの時の I V I の和音演奏を児童に演奏してもらっていたこともあり、短調の学習をしたこの時間の終わりに「先生、短調の和音であいさつできるかな。」という言葉が児童から出た。ピアノを習っている児童が「わたししできそう。」というのでやってもらったところ、あいさつの後に「何だか悲しくなってきた。」と笑いながら冗談を言う児童もいた。短調の音階を学習したことで、その和音にも興味を示してくれた児童にうれしくなった。

**音楽のたからものを集めよう**

曲名 キリマンジャロ 5年1組

	① わかったこと	② 感じたこと
楽譜を見て	① ② は、四分音符や二分音符が多かった。 ① は、② より強くなる感じがした。 ① は、② より弱くなる感じがした。	
演奏を聞いて	① は、② より強くなる感じがした。 ① は、② より弱くなる感じがした。	
自分は、この曲を	きれいな音色でドラムと他の楽器がうまくコラボして聞こえる感じがした。	
この曲を演奏してわかったこと、思ったこと		

①は②より強く、②は①より弱い感じがした。  
①は②より弱く、②は①より強い感じがした。

**音楽のたからものを集めよう**

曲名 キリマンジャロ 5年1組

	① わかったこと	② 感じたこと
楽譜を見て	① リコーダーと「アニカバ」マゼンリフ	
演奏を聞いて	① ② は、① より強くなる感じがした。 ① ② は、① より弱くなる感じがした。	
自分は、この曲を	きれいな音色でドラムと他の楽器がうまくコラボして聞こえる感じがした。	
この曲を演奏してわかったこと、思ったこと		

①は②より強く、②は①より弱い感じがした。  
①は②より弱く、②は①より強い感じがした。

この教材は、本時の鑑賞の授業を終えてから取り組んだ。楽譜を見ずに範奏を聴くことから始め、このカードに記入していった。範唱を聴いた時点で多くの児童が同じリズムフレーズがくり返されていることに気付いた。そして、楽譜を見て①と②の特徴に気付く児童が多かった。特徴の異なる部分があることから「アイネ クライネ ナハトムジーク」に似てる。」という児童もいた。現時点ではまだ合奏の練習に入っていないのだが、学習カードのこの曲をどのように演奏したいかという欄にそれぞれの児童の思いがたくさん書かれているので、その実現ができるよう指導していきたいと思う。

この「音楽のたからものを集めよう」の活動を継続してきて、児童の学習カードへの記入や表現活動の様子などから、次のような成果が上げられる。

〔音楽を特徴付けている要素を読み取ることへの成果〕

- ・楽譜に興味のなかった児童が楽譜を意識して見るようになった。
- ・楽曲の構成に気付けるようになった。
- ・聴いて感じたことと、どうしてそう感じるのかという音楽を特徴付けている要素を関連させて考えられるようになった。

〔表現活動へ影響〕

- ・わかったこと、感じたことを、自分たちの表現につなげ演奏の工夫ができるようになった。
- ・音楽全体を味わって聴いたり演奏したりするようになった。

(歌唱では伴奏を意識して歌うようになり、合奏では自分以外の人が演奏する楽器の音を聴きながら演奏しようとするようになった。)

〔児童の意欲への影響〕

- ・範唱や範奏を音楽を特徴付けている要素に意識して聴くことで、その曲へのあこがれの気持ちをもつことができるようになった。

※児童の日記より（「キリマンジャロ」を聴いて音楽のたからものを集めた日）

今日家にある電子ピアノで「キリマンジャロ」の主旋律を弾いてみました。うまくできたので妹にリコーダーを借りてやってみました。まちがいつつもできたのですが、最後の高いラの音がまだ習っていないで吹けなくて残念でした。早く習いたいです。

(3) ふしづくりの活動より

「秋にさよなら」で学習した短調について、さらに理解を深めるために、短調のふしづくりを行った。下記に示すものが授業で使用した学習カードである。2小節のモチーフを示すことで児童があまり負担を感じることなくふしづくりができるようにした。小さく手書きになっているところは、主音で終わると終わった感じになることや、音符の書き方、終止線の書き方などが書かれている。モチーフは児童が自分の力に合わせて選べるように簡単なものも用意した。また、発展として初めから自分でふしづくりができるような工夫もした。

短調のふしをつくろう  
5年 組( )

モチーフ①  
モチーフ②  
モチーフ③

モチーフ④  
モチーフ⑤

また終めは、終わった感じになる。

もうひとつの音は、ひつととに ♯  
\* 2/4 は 1小節に ♯ がわり  
\* 3/4 は 1小節に ♯ が5つ

◎音がかきかかるとは  
降調で1小節あきす。

※ 終めは  
終止線

このふしづくりをするときに、既習曲を例に挙げてモチーフの反復や変化を児童に見つけさせ、まとまりのあるふしがつくれるように指導した。以下がふしづくりの授業の展開である。

本時の学習 (2 / 8時)

(1) 目標

短調の音階を理解し、楽しみながらふしづくりをする。

(2) 展開

学習活動	・教師の働きかけ ◎学習活動における具体の評価規準 ☆読解力を育成する視点
1 「秋にさよなら」を歌う。	・前時までの学習を想起させ、歌詞の内容に合った歌い方や、短調の曲想を生かした歌い方ができるようにする。
2 イ短調の音階を鍵盤ハーモニカで弾く。	・音階を構成している音を確認しながら弾けるようにする。
3 本時の課題を知る。	

短調のふしをつくろう

<p>4 既習曲のふしの構成を知る。</p>	<p>☆既習曲を参考に、モチーフをくり返したり、変化させたりすることによって簡単にふしづくりができることを知らせる。 (4小節の例「やさしい風に」8小節の例「いつでもあの海は」「静かにねむれ」)</p>
<p>5 続きをつくりたいモチーフを選び、ふしづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフを歌う。</li>   <li>・モチーフを選んでふしをつくる。</li>   <li>・ふしができたら演奏の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフに続くふしをつくらせることによって、簡単にふしづくりができるようにする。</li> <li>・各モチーフを階名唱することで、くしづくりにつながられるようにする。</li> <li>・リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏しながらふしをつくってよいことを知らせ、ソ#の運指を確認する。</li> <li>・自分の力に合わせて、4小節又は8小節のふしをつくらせる。</li> <li>・記譜できない児童は自分にわかる方法で記入させておき、教師が記譜を手伝う。</li> <li>・ふしの終わりが完全終止となるように助言する。</li> <li>・モチーフを使わず、自分で初めからふしづくりをしたい児童のための五線も用意しておく。</li> <li>・つくったふしを発表するために練習をさせる。</li> </ul> <p>◎楽しみながら短調のふしをつくっている。ウー① 〔表現の技能：様子観察・つくったふし〕</p>
<p>6 できあがったふしを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の時間を確保し、自信をもって発表できるようにする。</li> <li>・短調の音階を使えたこと、くり返しなどの工夫をしてつくれたことを称賛する。</li> <li>・全員が発表できるように、この題材の授業の始めの時間に発表の時間を設けることを伝える。</li> </ul>

〈児童のつくったふし〉 →

児童のつくったふしに簡単な和音伴奏をつけ発表せた。中にはふしはできたが演奏できないという児童もいたが、ここでのねらいは短調のふ



しをつくることなので「すてきなふしができたら先生が演奏するから大丈夫」と励ました。また、記譜の難しい児童は階名で記入させ、記譜は教師が手伝った。

このふしづくりをすることによって、短調の音階の理解を深めるだけでなく、既習曲から読み取った反復や変化を児童が自分の表現に生かすことができた。1段目ができると簡単に2段目ができることがわかった児童は、たくさんのふしをつくっていた。また、和音進行が同じ児童にそれぞれのふしを合わせて演奏させ、二重奏をさせた。聴いている児童は「すごい！」と目を輝かせて聴いていた。演奏



した児童は大変誇らしげで、自分たちのつくった他のふしも二重奏にできないかと挑戦していた。そして、きれいに重なる音を見つけ出してふしをつくり直し、二重奏を楽しんでいた。

このふしづくりをしたことで、短調の音階の理解が深まっただけでなく、ふしの反復や変化、そして、音の重なりまで発展させて児童が音楽を楽しめてことは大変大きな成果であると思う。これは、これまでの音楽の学習で「音楽のたからものを集めよう」の活動を中心に、音楽を特徴付けている要素を読み取らせることを意識して授業を展開してきたためと考える。

## (2) 本時の鑑賞の活動より

本時の鑑賞では、音楽を特徴付けている要素を読み取れるよう次のような4つの活動を行った。

- ①曲想の変化に焦点を当てて聴かせ、曲の感じが変わったなど思うところで手を挙げさせた。児童が変化を感じ手を挙げるたびに黒板に番号を書いた。このことから、この曲は8つの変化があり9つの部分でできていることが分かった。
  - ②9つの部分ごとに曲の感じをメモしながら聴いた。この聴き方をしたことで児童は次のようなことを発見した。
    - ・①②③と⑦⑧⑨は同じ。(この部分をAとする)
    - ・Aははずんだ感じがする。Bは滑らかな感じがする。
    - ・⑦は①と同じなのに迫力があるように感じた。
  - ③どうしてそう感じたのだろうかを考えながら聴いた。このときに楽譜を提示した。児童はすぐにスタッカートやスラーに気付き、そう感じた根拠を説明した。⑦が迫力があると感じたのは、Bの部分がゆったりしていて静かだったからと理由付けた。
  - ④身体表現をしながら楽曲全体を味わって聴いた。はずんだ感じの時は右手を、滑らかな感じの時は左手を、強くなったら出している手を前に出した。3拍子のリズムに合わせて指揮者のように手を動かす児童も見られた。
- この4つの活動で児童は資料4のような学習カードへの記入をしている。

## 〈資料4〉児童の学習カード

○曲想の変化を感じ取りながら聴こう。

1 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」 モーツァルト 作曲  
を聴いて、曲の感じが変わったところで手を挙げましょう。  
いくつかの部分からできているかな？

曲の構成図

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
世がはずんだ感じ	やわやわ	ゆっくりゆっくり	ゆつたりとした感じ	音大くこからゆつたり	大きくからゆつたり	③と同じ	ゆつたりとした感じ	強弱記号

○強弱記号

2 身体表現をしながら聴いて感想を書きましょう。

身体表現をしながら聴いていると、  
音の強弱がわかります。はずんだところと、なめらかなところは、ほんそうがちがいます。

○曲想の変化を感じ取りながら聴こう。

1 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第3楽章」 モーツァルト 作曲  
を聴いて、曲の感じが変わったところで手を挙げましょう。  
いくつかの部分からできているかな？

曲の構成図

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
少し垂れ感								

⑩はわりわり  
静かさが変わったから  
なぜか心に感じるの!

2 身体表現をしながら聴いて感想を書きましょう。

ただ聴いただけだと楽しくならないけど、身体表現をしながらだと楽しくておもしろくなりました。それに、先が何回も聴くと予想できるからさらにおもしろくなりました。音楽は色々な表現ができてすごいと思いました。

この学習カードから、児童は楽曲の各部分の変化やくり返しに気付いたり、その変化を味わいながら聴いたりしていることが分かる。また、主旋律の感じの変化だけでなく伴奏のパートの変化にも気付いたり、「先が予想できておもしろい」と感じたりと、児童がそれぞれこの楽曲を主体的に聴いていることも分かった。

この児童の気付きや感じたことがこれから行う「キリマンジャロ」の合奏に生かされることを期待している。

## 9 考察

「音楽のたからものを集めよう」の活動は、隠されているたからもの探し出すようなわくわくした気持ちで児童が取り組んでくれるように工夫しながら行った。いつも教師から与えられていたことを自分たちで見つけ出すこの活動は、児童の主体的な音楽活動につながっていった。始めは、見つけ出すことに満足してしまい表現の工夫へとつなげるのは苦労したが、この活動を重ねていくと、児童の意識は、始めから表現のためのたからもの集めるというふうに変わっていった。少しずつではあるが、音楽を特徴付けている要素を読み取って、それを表現に生かしていくということができるようになってきたわけである。

この「音楽のたからものを集めよう」の活動は、鑑賞の活動にもよい影響を与えた。拍子、速さ、調、強弱などの諸要素に敏感になった児童は、鑑賞曲を聴いても自分の言葉で自由に気付いたことや感じたことを、発表したり書いたりできるようになった。その言葉を、音楽的な言葉や全員に分かるような言葉にしてあげることが教師の役割となっていった。

しかし、この「音楽のたからものを集めよう」の活動は、大変時間がかかる。全ての楽曲で行うのは不可能であり、今回のように中心教材で扱うだけにしたもかなり大変だった。そこで、このように学習カードに記入はしなくても、楽譜に書き込んだり教師が意識してこの学習カードにあるようなことを質問したりするなどして「音楽を特徴付けている要素」を読み取らせることを意識して授業を行っていったらよいと思う。

この研究にあたって、音楽経験が少なく音楽の知識も少ない児童に、音楽を特徴付けている要素を読み取らせるにはどうしたらよいのかと大変悩んだ。そして、音楽を聴いて、楽譜を見て、児童はどんなことを感じたり気付いたりしているのかを調査することから始めようと思い「音楽のたからものを集めよう」という活動を行った。このカードには自分が感じたことを自由に自分の言葉で記入できるようにした。そのため、児童は、音楽的な言葉ではないが音楽を特徴付けている要素につながるようなことをたくさん書き発表してくれた。今まで、児童が感じ取っていることを無視して、教師の思いを押しつけていたのだということを感じ、深く反省した。楽曲を聴いて、演奏して、楽譜を見て、児童は教師が思う以上に多くのことに気付き、多くのことを感じ取っている。その気付きや感じ取りをうまく吸い上げて、児童の願いが叶うような指導をしていくのが教師の役割ではないかと思った。